

令和5年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序

- | | | |
|---|-----|----------|
| 1 | 13番 | 嶺岡慎悟 議員 |
| 2 | 10番 | 富田まゆみ 議員 |
| 3 | 8番 | 山田浩司 議員 |
| 4 | 7番 | 大井 正 議員 |
| 5 | 2番 | 安田 彰 議員 |
| 6 | 11番 | 勝川志保子 議員 |
| 7 | 5番 | 鷺山記世 議員 |
| 8 | 14番 | 藤澤恭子 議員 |
| 9 | 18番 | 窪野愛子 議員 |

令和5年第1回(2月)掛川市議会定例会
一般質問発言順序(予定)

3/7 AM 13番 嶺岡慎悟 議員

10番 富田まゆみ 議員

PM 8番 山田浩司 議員

7番 大井正 議員

2番 安田彰 議員

3/8 AM 11番 勝川志保子 議員

5番 鷺山記世 議員

PM 14番 藤澤恭子 議員

18番 窪野愛子 議員

一般質問通告要旨

議席番号	13	氏名	嶺岡慎悟	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 選ばれるまち掛川に向けて

(答弁：市長)

掛川市の令和4年の出生数は、755人と衝撃的な数字となった。今後さらに少子化が進むことが想定され、掛川市が持続可能なまちであるためには人口の維持が行政の最も重要な命題である。そこで、掛川市が選ばれるまちとなるために以下の点を伺う。

- (1) 本年1月7日に新聞報道のあった移住者数の回答ミスについて、組織としてどのような問題があったと捉えているのか伺う
- (2) 総務省が公表した2022年の人口移動報告において、掛川市の日本人の転出超過は137人（県内22位）であるが、この結果をどう捉え、今後の施策につなげていく考えなのか伺う
- (3) 移住希望者に対して十分な空き家が供給できているのか伺う
- (4) 購買力のある高齢者の移住施策を強化する考えがないか伺う
- (5) 令和5年度の移住促進事業について、国の制度改正による子ども加算等により予算規模は大きくなっているが、移住体験ツアーなどの市独自事業については、どのように取り組んでいく考えなのか伺う
- (6) 令和5年度の掛川城漆喰塀ほか改修工事について、単なる改修工事ではなく、掛川市の文化政策をPRする場とするべきと考えるが、見解を伺う
- (7) 令和5年度の地域おこし協力隊の増員について、どのような活動を担ってもらおうと考えているのか伺う
- (8) 移住定住事業と婚活事業を連携させ、移住婚をすすめていく考えがないか伺う
- (9) 物価高騰による給食費の保護者負担の増加について、市のイメージ戦略の観点からどのように考えているのか、見解を伺う
- (10) 移住定住策の1つとして、小中学校や高校への入学祝い金を検討してはと考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	10	氏名	富田まゆみ	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 市長の対話政策について (答弁：市長)

就任以来、「未来に向けてチャレンジできるまち」を目指して、対話重視の政策を提唱してきた市長は、令和5年度は「人と環境の持続可能性」を柱にまちづくりを進めるとしている。

施政方針の結びで、多くの方々との対話を通して市政に全力で取り組んでいくとのことだが、市長の対話に対する考え方、特に地区集会について伺う。

- (1) 令和5年度以降の地区集会も本年度と同じ開催方法とするのか、市長の対話に対する考え方について伺う

2 有効な公共交通の在り方について (答弁：市長)

掛川市の公共交通は、市民の生活の足として使いやすい形態とは言い難く、毎年赤字額が増えており、公共交通の維持に令和3年度で2億3,900万円を負担している。

令和5年度には、地域公共交通計画（以下、計画という）が策定されるが、運賃格差の是正や利便性が向上するよう、市民の声が反映され財政面での課題が少しでも解決される計画策定が求められる。これから策定される計画は、現状を踏襲するのではなく、公共交通の利便性を損なわず、サービス価値を最大限に高めていくための抜本的な改革を盛り込む計画であることが必要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 公共交通の在り方について、市の見解は、将来的にドアツードアとのことであるが、現在策定中の計画では、この点に関してどのように反映されるのか伺う
- (2) アンケート結果から得られた課題やニーズを、どのように計画に盛り込むのか伺う
- (3) 平成28年12月の掛川市議会公共交通あり方検討特別委員会の提言では、料金格差の是正による不公平感の解消、乗車意欲の向上が指摘されている。早急に料金体系を見直すべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 公共交通を積極的に活用してもらうことは、公共交通維持に欠かせないことと考える。活用を促すために、自家用車に乗らない日を設け健康マイレージに紐付けしたり、イベント会場まで公共交通を利用した人には特典を付けたりするなどの施策が有効と考えるが、見解を伺う

3 教育現場における働き方改革について

(答弁：教育長)

学校現場の多忙化が叫ばれて久しく、さまざまな対応がされてきたが、さらに業務改革に向けた取組が必要と考え、以下の点について伺う。

- (1) 令和5年4月1日「掛川市立学校教育職員の業務量の管理等に関する規則」が出されるが、実効性を高めるためには、取組内容を具体化・明確化した業務改革プランの策定が必要と考えるが、見解を伺う
- (2) 中央教育審議会答申に示されているとおり、教師が担ってきた業務についての役割分担・適正化のためのフォローが必要である。地域ボランティアや地域有償ボランティアの活用、市独自のサポートスタッフの配置、外部委託化を進めるほか、保護者の協力を求める必要があると考えるが、見解を伺う
- (3) 養護教諭や教職員が行う児童生徒への対応と事務処理による負担増が課題となっている。就学時健診の市職員による業務支援、または健診をまとめて行うなど、開催方法の検討や、養護教諭の複数配置が有効と考えるが、見解を伺う
- (4) 児童生徒（園児）への安全・安心な給食の提供と、食と健康教育、食物アレルギーへの対応などを考慮し、栄養教諭の増員が必要と考える。県への加配要請や市が独自に人材を確保し体制を整えるべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 児童生徒（園児）の教育支援を行っているこども育成支援協議会所属のコーディネーターが、活動しやすい環境づくりを進めるべきと考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	8	氏名	山田浩司	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 掛川市の良好な生活環境の確保について (答弁：市長)

少子高齢化社会の中で、一人暮らしのお宅や、空き家などが住宅地で増加している。そして、その住宅によるさまざまな出来事により、近隣住民の安心した暮らしが侵される事態を耳にするようになってきた。例えば、猫の多頭飼いによる糞尿被害、ゴミの放置による火災の心配、樹木の巨木化により木が市道にはみ出し、通行車両に迷惑をかける現象などである。そこで、「掛川市良好な生活環境の確保に関する条例」について以下を伺う。

- (1) この条例に関する市の実行性について伺う
- (2) 行政側の指導力が発揮できるような条例にすべきと考えるが、見解を伺う

2 駅南地域の活性化について (答弁：市長)

昭和63年に新幹線の掛川駅が開業し、駅南地域に住宅地が広がり始めた。本年度は、南西郷地区の土地利活用可能性調査が委託業務として始められた。中心市街地を含め、駅南地域も都市拠点として位置づけられ、にぎわいのある快適な都市空間の形成を目指している。掛川駅周辺は中心市街地をはじめとし、駅南地域も掛川の顔となる拠点であり、駅南地域の発展は掛川市の発展として非常に重要なことと考え、以下を伺う。

- (1) 駅南地域の活性化について、今後の方向性を伺う
- (2) 駅南地域への商業施設の誘致について見解を伺う
- (3) 南西郷地域は物流や工場にとらわれず、幅広い土地活用の検討をすべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 南西郷地域を開発していくには、民間の手を借りて早く進めることも1つの方法であると考え、見解を伺う
- (5) 南西郷地域の地形を見ると高低差は70mあり、この高低差を生かした開発を検討すべきと考えるが、その開発方針を伺う
- (6) 南西郷地域の中心を通す高御所久保線の延伸や、掛川高瀬線の南西郷地域部分への歩道整備など、道路網全体を検討していくことも必要であると考え、見解を伺う
- (7) 駅南地域への県庁本庁機能の移転も含め、誘致の検討状況を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	7	氏名	大井 正	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 風力発電施設の建設問題に関する今後の取組について (答弁：市長)

市北部山間地に株式会社シーテックにより計画されている風力発電事業は、昨秋の準備書縦覧と関係者からの意見募集を終え、1月から静岡県環境影響評価審査会が始まった。

1月19日の1回目審査会では、多くの審査員から準備書の記載内容の不備や分かりにくさが指摘されるとともに、関係者から寄せられた意見に対して誠実な回答がなされていないことに、憤りをあらわにした指摘も出された。

2月16日の2回目審査会では、掛川市をはじめ関係市町の首長の意見書と、これに対する事業者の見解が開示されたが、その見解についても具体性に乏しく、再調査、再検討を求める指摘が数多くなされた。

こうした状況から、この風力発電施設が事業者の計画通り建設された場合、取り返しのつかない自然破壊や崩土事故の誘発原因になる懸念がぬぐい切れない。

市長が意見書で示した懸念が払拭され、環境対策が確実に実施され、将来にわたって地域と市民の安全や快適性が確保されるための、今後の取組方針を伺う。

- (1) 今後、市民や諸団体から意見が挙がった場合の対応について伺う
- (2) 今後、必要に応じて、市として意見や要望を提出する考えがあるか伺う
- (3) 令和5年度中の施行を目指して作業中の再生可能エネルギーに関する条例のゾーニングにおいて、12号、15号の風力発電施設予定地と、3号、4号発生土流用盛土予定地を、開発抑制区域に指定すべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 静岡県、島田市、森町などと連携して、情報共有や申入れなどをしていくべきと考えるが、見解を伺う

2 中学校の部活動が果たしてきた教育的意義の継承・発展について (答弁：市長、教育長)

今まで中学校の部活動は教育の一環と捉え、主に学校施設を使い、教師が顧問を担い運営してきた。こうした環境は、学校側からすれば、子どもを多面的にとらえることができ、評価や指導を行う上で有益であった。子どもの側も、同じ地域の異学年、異クラスのチームメイトとの交流を通しての人格形成など、日常交流が可能だからこそその成長ができた。

しかし、近年の少子化の進展や、教師の業務量拡大と教員配置数の減少が、従来型の部活動の持続を難しくしている。

こうした中、スポーツ庁と文化庁は、昨年12月「学校部活動及び新たな地域ク

ラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（以下「ガイドライン」）を策定し、部活動の在り方と、教師の働き方改革の指針を示した。

一方、掛川市では、来年度施政方針により、部活動を学校教育から切り離し、地域文化・スポーツ活動への移行のための協議をすすめるとの方向が示された。

このような大転換が、果たして子どもの全人格的成長という、部活動が果たすべき教育的目的と合致したものか、見解を伺う。

- (1) ガイドラインでは、休日の部活動を地域に移行し、平日は学校部活を存続させる前提で指針を示している。本市では全活動日を一気に移行させるとしているが、判断に至った理由を伺う
- (2) 今回示された方針策定にあたり、子ども及びその保護者の意見はどのように聴取され、反映されているのか伺う
- (3) 移行先とされる仮称かけがわ地域クラブ（以下「地域クラブ」）が具備すべき体制と、指導者を含む必要要員について伺う
- (4) 地域クラブによる部活動の運営方針に教育的配慮を盛り込むのは、誰の責任で行われるのか伺う
- (5) 地域クラブによる部活動の運営責任の所在はどこにあるのか伺う
- (6) 地域クラブの運営費用を保護者負担とすべきでないと考えますが、見解を伺う
- (7) 部活動の運営形態の変更は、子どもや保護者、地域との合意形成のもと、確実な方針と体制を構築して行うべきで、今は時期尚早と考えますが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	安田 彰	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	---	----	------	---

1 誘客するための効果的なシティプロモーションについて (答弁：市長)

掛川市の年明けは王将戦の話題で盛り上がった。藤井聡太王将と羽生善治九段の対局は、将棋に関心の薄い私でさえもわくわくする夢の対決であった。世間の関心が集まり、テレビ、新聞などで掛川市が大きく取り上げられた。

このようなことを一つ一つ積み上げていくことが、シティプロモーションとして大切だと考える。

そこで、誘客するための効果的なシティプロモーションに関して、以下の点について伺う。

- (1) 今年の王将戦第1局開催の経済効果について見解を伺う
- (2) 広報かけがわで市長は、「開催希望都市が相次ぎ掛川対局は容易ではないが、永世開催地を目指して努力をしていく。」と述べている。具体的な取組と見通しについて伺う
- (3) 王将戦第1局と、NHK「どうする家康」の放送開始日が重なる中、掛川城が工事中であったことが残念でならないという声を聞いた。このようなイベントに合わせて工事時期や期間を調整する必要があったと考えるが、見解を伺う
- (4) 観光客が自動車で気軽に訪れられる駐車場環境も重要だと考える。掛川城入館者には、大手門や掛川城公園の駐車場を1時間ないし2時間無料にすることが有効だと考えるが、見解を伺う
- (5) ふるさと納税の件数は、ここ数年6～7万件程度である。この納税者に掛川へ来てもらうことで、市内の経済が活性化すると考えるが、見解を伺う

2 不登校対策について (答弁：教育長)

昨年10月に、令和3年度の全国小中学校の不登校児童生徒数が過去最高というニュースがあった。中学校の不登校状況は5%で、40人学級なら1クラス2人が不登校の計算になると述べている。掛川市の不登校は比較的少ないが、全国同様増加傾向にあると聞いている。掛川市教育委員会はみどり教室及び北分教室を設置し、さらに5中学校にサテライト教室を設置して、不登校及び不登校傾向の児童生徒に寄り添った支援を行っている。しかし、施設の充実や指導員の確保が課題となっているようである。

不登校の原因はさまざま改善は容易ではないが、長期的な視点に立ち、一人ひとりの実態を考慮した手立てを講じていくことが重要であると考えます。文部科学省が全都道府県への設置を推進している「不登校特例校」は、不登校児童生徒

の実態に配慮した特別な教育課程を編成して教育を行うことができる点で魅力的な学校だと考える。

そこで、今後の掛川市の不登校児童生徒への支援策について、以下の点について伺う。

- (1) 増加傾向にある掛川市の不登校状況の今後について、見解を伺う
- (2) 不登校児童生徒に対する支援の課題解決に向けての方策を伺う
- (3) 文部科学省が推進している「不登校特例校」の設置を検討する価値はあると考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	勝川志保子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 義務教育の無償化を進めるために (答弁：市長、教育長)

子育ては社会が担うものである。高い教育費に子育てをためらったり、家庭の経済状況で教育を受ける権利が侵害されては、未来に向かって持続可能なまちとはならない。憲法は「義務教育は無償」とうたっている。子どもたちの健やかな成長のため、義務教育無償化の施策を伺う。

- (1) ふるさと応援基金の取り崩しなどで、物価高騰が家計を直撃している最中の給食費の保護者負担増は回避するべきと考えるが、見解を伺う
- (2) 学校給食に「地産地消のふるさと給食の日」、「アレルギーフリーみんなでいっしょの給食の日」などを設定し、食育として市費で給食を提供する事ができないか伺う
- (3) 就学援助申請書を全家庭配布するなど、申請率の抜本的な底上げを図るべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 新入学用品、学用品、通学用自転車などの必要経費を調査の上、就学援助額をそれに見合うものに改定するべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 副教材費などの集金や積立金、学校指定や推奨品の購入、部活動費用など、隠れ教育費といわれる家庭負担の軽減施策を伺う

2 市民要望を取り入れた総合的な22世紀の丘公園整備を (答弁：市長)

たまり～なの再整備計画策定にあたって行なわれたアンケート調査では、他では見られないほどに広く積極的な意見や要望が数多く寄せられており、市民の期待度の高さが見てとれる。22世紀の丘公園が市民力を生かした公園・施設として、より発展できる可能性は大きい。またプールや温浴施設をリハビリや健康増進に活用していた市民に対して、市は廃止決定に責任を果たす必要があると考える。

22世紀の丘公園を指定管理者任せでなく長期的な計画や展望を持ち、全庁体制で運営する質の高い総合施設へと進化させるための施策を伺う。

- (1) 市は、たまり～なのプールや温浴施設の廃止を決定した。さんりーなでリハビリや健康増進などの市民要望に沿うことは難しいと考えるが、代替施設について見解を伺う
- (2) 屋外施設についても、噴水広場や探索路などの整備要望に応える計画策定が重要だと考えるが、見解を伺う
- (3) 屋内への木育広場の整備について検討状況を伺う

- (4) 屋内施設料金は、市内外の格差を設けるなどして、市民には安価で利用しやすいものにするべきだと考えるが、見解を伺う
- (5) 屋内屋外を問わず、曜日・時間帯などのすみ分けを進め、全世代での利用ができるよう工夫するべきと考えるが、見解を伺う
- (6) 総合施設として機能させるため、維持管理課のみでなく、こども希望課、長寿推進課、環境政策課、資産経営課など各課横断した総合的な運営体制と市民力の生かせる市民参加型運営を目指すべきと考えるが、見解を伺う

3 猫に関する問題の解決で市民も猫も幸せになるまちづくりを (答弁：市長)

市には飼い主のいない猫や多頭飼育崩壊など、猫を巡る苦情やトラブルがたくさん寄せられるが、その解決は難しく、多くの市民が猫の問題で悩んでいる。捨て猫、殺処分、多発する交通事故死など不幸な猫をなくすことで人と動物が共存できる住みやすいまちになると考え、猫の苦情や問題解決のための施策を伺う。

- (1) 市の責任で、動物愛護週間なども利用しながら、動物愛護の精神に基づいた適正飼育や、飼い主のいない猫を減らすための啓発活動を活発に行なうことが重要であると考え、見解を伺う
- (2) 猫の飼育に飼い主が責任を持てるよう、市として猫の登録制度を創設するべきと考えるが、見解を伺う
- (3) 不妊去勢手術助成制度は、さまざまなケースに柔軟に対応できるよう見直しが必要であると考え、見解を伺う
- (4) 保健所や県、ボランティア団体、獣医師会、自治会などとも協力し、猫の譲渡の推進や地域猫活動（TNR）に市として取り組むべきと考えるが、見解を伺う
- (5) 多頭飼育崩壊解決のためには、生活全般の包括的支援が必要と考えるが、見解を伺う
- (6) 猫の問題の解決のためには、行き場のない猫を引き取り、譲渡先を探すまでの居場所などとして行政と連携した保護施設（シェルター）が必須だと考えるが、見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	鷺山記世	質問の方式（一問一答・ <input checked="" type="checkbox"/> 一括）
------	---	----	------	---

1 SDGs 未来都市計画と住民福祉の増進について（答弁：市長、教育長）

SDGs 未来都市計画には2030年のあるべき姿として「すべての人に優しく持続可能なまちであり続けるために、国籍、性別、年齢、生き方、暮らし方の多様性を認め合い」とあるが、学校や観光地のトイレはまだ多様性を認め合う状態が整えられていないと考える。また、教育・文化分野に「歴史・文化的資源を尊重し、活用を図ることで郷土への愛着や誇りを育む」とあるが、活用しきれていないのではないかと考える。

そこで以下について伺う。

- (1) 学校の特に女子トイレの洋式化を早急に進める必要があると考えるが、見解を伺う
- (2) 観光地でもある粟ヶ岳。東山いっぷく処とバス停「東山」にあるトイレをユニバーサルデザインや性の多様性に配慮したトイレにする必要があると考えるが、見解を伺う
- (3) 子どもたちの郷土愛を育むために、お茶と偉人以外で、これまでどのような取組をしてきたのか伺う
- (4) 粟ヶ岳山頂にある「無間の井戸」。この井戸に埋められた鐘の言い伝えが、文楽や歌舞伎の演目「ひらかな盛衰記」の四段目「神崎揚屋」の演出で肝要な場面に取り入れられている。茶エンナーレで上演し郷土愛を育むべきと考えるが、見解を伺う

2 仮称かけがわ地域クラブについて（答弁：市長、教育長）

保護者や指導希望者から不安や疑問の声が上がっている。不安を解消していくために以下について伺う。

- (1) 保護者の費用負担と送迎の負担軽減についての対策を伺う
- (2) 現時点でも体育館などの予約が取りづらい状況にある。袋井市や磐田市のように公共施設予約システムを導入すべきと考えるが、見解を伺う

3 参観会の開催期間について（答弁：教育長）

夫婦共働きの家庭が多い現在、参観会開催日が事前に知らされても仕事の都合

上参観できない保護者もいる。公正性が担保された掛川市となっていくために、以下について伺う。

- (1) 1日だけではなく数日間開催できないか見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	藤澤 恭子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	-------	---

1 新たな財源確保の拡充について (答弁：市長)

少子化の勢いが止まらず、人口減少・超高齢社会が進むことも予測され、厳しい財政の中、健全な自治体運営を持続するには、新たな財源確保へのチャレンジも必要である。本市においても、事業の選択と集中や改善、改革を行うなどさまざまな取組を進めているが、歳入確保に向けては、さらに踏み込んで職員一人ひとりが、危機感と経営意識をもってアイデアを出し合うことが重要ではないかと考える。健全で安定した財政基盤を確立することは、市民が暮らしやすい安定した掛川市につながることから、以下について伺う。

- (1) 新たな財源確保の展望と具体策を伺う
- (2) 令和5年度の新規事業である遺贈寄附の展開と目標を伺う
- (3) 企業誘致、移住定住、ふるさと納税、遺贈寄附など、さまざまな分野で掛川市が選ばれるための「魅力発信で選ばれるまち」の具体策を伺う
- (4) 資産経営課が新設され一年が経過したが、課名である資産経営の考え方と方向性について伺う

2 海岸線沿いの安全安心について (答弁：市長)

ウィズコロナ、ポストコロナを目前に控え、国内外の観光客や流入も期待できる。

さらに、掛川市海岸線地域振興ビジョン、掛川潮騒の杜の完成により、マリンスポーツや海岸線が掛川の魅力として大いに活用されることで、今まで以上に市内の観光客増加や活性化にも希望が膨らむ。そこで、海岸線における安全安心対策のますますの充実が必要であることから以下について伺う。

- (1) 防潮堤の建設により一律化してしまった景色では、海岸での事故や緊急時に誘導が難しい。海岸の目印となるものが必要と考えるが、見解を伺う
- (2) 海や海岸の安全や事故防止強化に向けて、市の積極的な協力体制が必要と考えるが、見解を伺う
- (3) 一刻を争う津波避難時には停電も予想され、長時間の避難が必要になる。そこで、避難場所への道路や避難所には、ソーラーライトや道路鎮の設置も有効であると考え、見解を伺う
- (4) 国道150号4車線化事業の掛川工区へ向け準備が進められていくが、中央分離帯の設置には、観光振興や災害時の避難も考慮すべきと考えるが、整備にお

ける対応と見解を伺う

一般質問通告要旨

議席番号	18	氏名	窪野愛子	質問の方式 (<input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括)
------	----	----	------	---

1 未来に向けてチャレンジできるまち掛川への取組について (答弁：市長)

広報かけがわ1月号に「令和5年かけがわ展望」との見出しで、本市が取り組む「チャレンジ」についての掲載があり、飛躍の一年になるように、対話を重視しながら、時代や社会の変化を的確に捉え、固定観念や既存の手法にとらわれることのない柔軟な思考で持続可能なまちを目指すと示された。そこで、以下について伺う。

- (1) 行財政改革の観点からも、経年化及び形骸化された事務事業を見直し、市職員の働き方改革を進めるために、事務事業の削減を図るべきと思うが、見解を伺う
- (2) NHK大河ドラマ「どうする家康」の放送効果を生かしつつ、持続性のある新たな誘客施策を考える必要があると思うが、見解を伺う
- (3) 掛川市観光振興計画の施策3の1「掛川茶と癒し効果」への取組には、ふるさと納税を活用すべきと考えるが、見解を伺う
- (4) 地域振興・雇用創出を図る事業の推進に向けた、新たな工業団地開発事業の企業誘致には、トップセールスが肝要と思うが、今後の対応について伺う

2 子どもたちの夢や希望が叶う教育環境の整備について (答弁：市長、教育長)

文部科学省は2022年12月、12年ぶりに「生徒指導提要」の改訂版を公表し、いじめの重大事案やGIGAスクール構想、性的マイノリティなど、子どもたちを取り巻く環境の変化や多様化・複雑化する生徒指導課題に柔軟に対応するとしている。本市においても教育環境を取り巻く問題や課題は山積しているが、令和6年4月には中学校新制服が導入されるなど、未だかつてない変革の時代を迎えていることを踏まえて、以下について伺う。

- (1) 近年、ブラック校則や学校の謎ルールといわれる中学校の校則の見直しが全国で話題になっているが、本市における今後の取組について伺う
- (2) 時代の変遷に伴い、家族観やジェンダー観が変化する中で、複雑化し多様な背景を持つ児童生徒が増えていることを踏まえ、当事者に寄り添い、多様性に配慮した教育環境の整備が求められているが、今後の支援体制について見解を伺う
- (3) ヤングケアラーの認知度向上や、今後の支援体制について見解を伺う